

令和2年度 第1回学校運営協議会 書面による意見交換

～委員からのご意見～

○臨時休業期間について

- ・学習の遅れが気になる。
- ・全体的に生徒・保護者への連絡や学校の方針などの生徒・保護者への説明が不十分であったと思う。

・HPでの校長メッセージなど有り難かったが、(学校と生徒が)「つながっている」ことを実感できる場面がもう少しあればよかった。

○再開後の感染予防策について

- ・体育の授業、プール授業、部活動の際の予防策はどうなっているのか、保護者に対しても学校の予防策をどうしているか説明をしてほしい。

○プリントの配付

- ・学校からのプリントについては見ていない保護者が多い。
- ・メール配信、HP掲載など利用して、その保護者でも確認できる手段を望む。

○高い学力の育成

・先生方のご苦勞がよくわかった。生徒たちが突然の新たな日常に良く対応しているのも、先生方のご努力の賜だと思う。

・今後いつまたオンラインに頼らざるを得ないような事態が発生するかもしれないので、今回の記録・蓄積を残すことは大切。

・高い学力の育成には、先生方が高い学力を持っておられることが何よりも大事。その意味で、先生方が自分を肥やされる時間をどれだけとれるかと言うことは大きなポイント。

○豊かな人間性とたくましさの育成

校長先生が日経のインタビュー記事で話しておられた、「文武両道」と「不易流行」を大切にされる方針で間違いのないと思う。人権に関しては、世界史や人文の時間のテーマかもしれないが、コロナ後の世界で、戦後20世紀後半に培われてきた色々な価値観が壊れようとしていることなども真剣に未来に向けて考えておく必要があるかもしれない。

○次代のグローバル・リーダーの育成

国際舞台で堂々と主張を述べられる力(プレゼンテーション力と主張内容への自信)を養うために、対外的な行事に参加する機会を、教育基金やWWL資金をうまく使って増やして頂きたい。

～ご意見に対する事務局からの説明～

○学校臨時休業が長期にわたったことで、勉強の遅れを心配されるのはもっとも。生徒の学力定着の観点から、休業中のオンライン学習で教えた部分についても、学校再開後復習をするなどして知識・理解の定着を図っている。授業日数減については、教授法の工夫、土曜日の隔週授業、夏休みの短縮によりカバーできる。

○休業期間中の情報伝達には何とか努めてきたつもりであったが、伝わっていなかったということであれば申し訳なかった。休校当初の連絡はホームページが中心だったが、公開している者なので利用内容は限られた。保護者へのメール配信は昨年度から行っていたが、登録者は各学年 200 名程度で全員ではなかったのも一因。郵送については 2 回行ったが、郵送費が底をついたためそれ以上はできず。これを機に以前から移行を考えていた「ライデンメール」（業者の提供するメール配信のためのサービス）へ生徒は全員登録させた。保護者もほぼ 9 割登録いただいた。今後は情報発信をメール中心に行う。連絡文書を見ていないとのことだが、生徒から保護者に渡らないのはどうしたものか。

○学校の感染予防策については、プリントで生徒へ配布した。また、保健日よりでは頻繁に注意喚起を行っていた。

○教員は生徒たちの学びが遅れないよう、必死になって対策を考えてくれた。オンライン教材の準備は実は通常授業以上に時間がかかる。また、双方向性を大事にした結果、生徒からの質問が 24 時間休み中でも送られて来、教員の中には休日も関係なく対応してくれた者もいた。

○生徒には知徳体バランスの取れた人間になってほしいと願っている。このような状況下ではあるが、行事については、制限を付けてでも何とか実施したい。また、コロナ罹患者に対するいじめなど、絶対に起こさないよう注視していく。

○コロナに負けるな。北野生の底力を見せてほしい。